

第一生命サラリーマン川柳コンクール 30回記念
サラ川で振り返る日本経済

第一生命保険株式会社
第一生命経済研究所

一生涯のパートナー
第一生命

川柳、雅号は、すべて応募者の表記にしたがっているため、一部当て字等での表記で掲載しています。
この小冊子の作品の著作権は、すべて第一生命に帰属しています。無断での転載、使用はご遠慮ください。

お届けしたのは…

はじめに

サラ川^{せん}の歴史は、日本の歴史？

世の中の良いこと・悪いこと・楽しいこと・不安なことを、まとめて笑い飛ばして元気に変えてしまおう。そんなことをずっと続けてきた「第一生命サラリーマン川柳コンクール」が、この度めでたく第30回を迎えます。これもひとえに、サラ川を愛してくださる皆様のおかげです。本当にありがとうございます。

5・7・5の、17文字に込められた想い。これまでに入選したたくさん作品をあらためて振り返ってみると、変わるもの、変わらないものがあるのだなあと感じます。

たとえば「変わらないもの」は、夫婦の絆。どんなに世知辛い世の中で、夫婦の小言が

川柳になっていても、そこには必ず優しい愛情が見え隠れしています。

一方で「変わるもの」は、経済情勢や世相。そう、サラ川30年の歴史を紐解くことは、日本の30年を振り返ることでもあるのです。この30年を振り返ってみると、日本もいろいろありました。

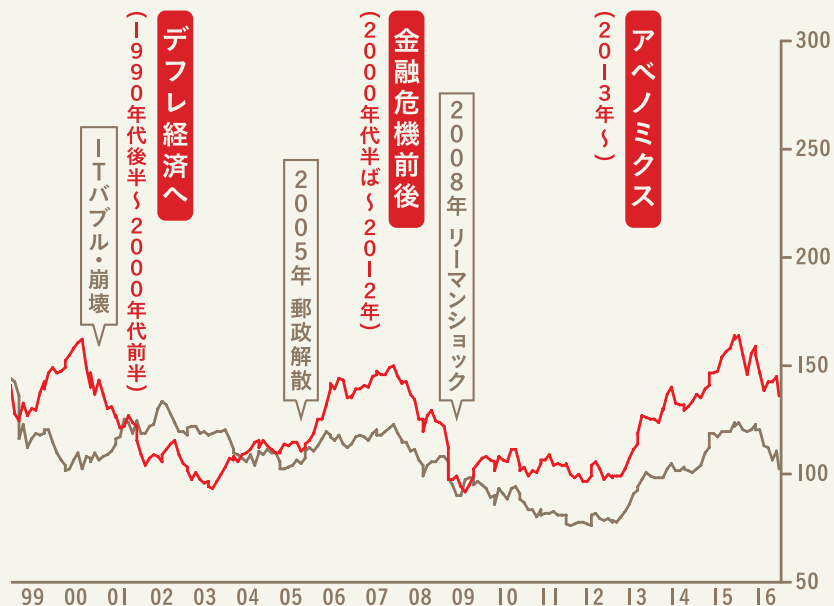
そんなわけで今回、「サラ川で振り返る日本経済」と銘打ちまして、これまでの入選作品とともに日本経済を振り返る冊子を作成しました。

いろいろあった日本経済ですが、

笑えない ことでも笑い 飛ばしたい

というサラ川のコンセプトそのままに、お楽しみいただければ幸いです。

〈日経平均株価・為替(ドル/円)の推移〉



(備考) Thomson Reuters により作成

— 日経平均株価・左軸
— 為替(ドル/円)・右軸

一戸建 手が出る土地は 熊も出る

ヤドカリ（第四回・1990年）



日経平均が4万円に迫り、不動産価格が2桁の上昇率を記録するなど、空前の資産バブルが発生。一般庶民が都心に一戸建を購入するのは夢のまた夢、と言われたように物価が全て急上昇したイメージがありますが、実はそれは不動産や高級車、ブランド品、ゴルフ会員権などの高額なモノが売れたというだけ。物価は比較的落ち着いており、消費者の生活を取り巻く経済環境は安定していたので、日本全体が楽観的なムードになりました。

流行語

「24時間タカエマスカ」（1989年）
「アツシークン」「ファジイ」（1990年）

句の傾向

バブル景気に沸く日本。土地の高騰などを嘆く句が多い一方、「オヤジギヤル」「ブランド品は貰うもの」等、元気な女性を詠んだ句もみられました。

好景気

そりやないよ 俺より稼ぐ フリーター 正社員（第四回・1990年）

元気な女性

ブランドは 見るもの聞くもの 貰うもの 貰くんの彼女（第四回・1990年）

御取り引き バブルはじけて お引き取り

逆転パパ（第七回・1993年）



資産バブルが急速に崩壊し、日経平均は1989年末の最高値からわずか2年後の1992年に一時15,000円を割り込みました。実質GDP成長率は80年代後半の5%から90年代前半は2%に落ち込み、倒産件数も増加の一途。お祭り騒ぎはどこへやら、この頃から日本の政策金利（公定歩合）は段階的に引き下げられ、普通預金の金利も低下しました。サラリーマンたちの声が弱々しくなってきたのもこの頃でしょうか。

■ 流行語

「もつ鍋」「冬彦さん」（1992年）

■ 句の傾向

投資の失敗や不景気を嘆く句が多く、後悔、諦め、自虐が滲んでいます。

夢さめて 株式欄を 避けて読む 読み人知らず（第四回・1990年）

イタメシが バブルはじけて モツなべに ポール牧々（第六回・1992年）

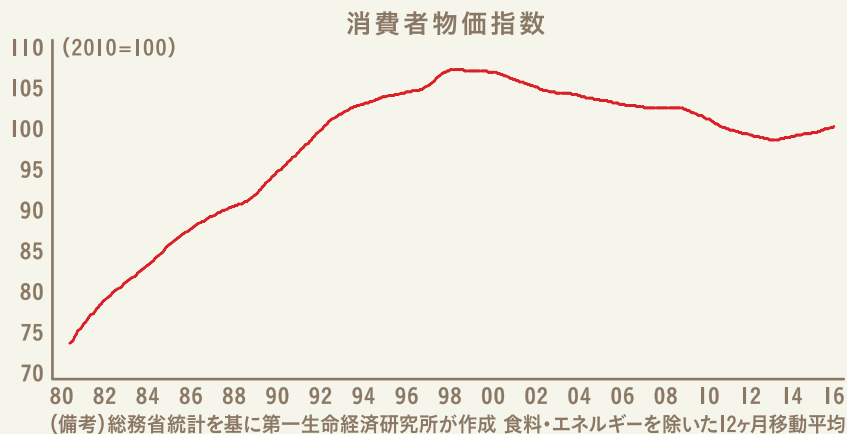
あの時に 売ればこの株 このマンション 過去の夢（第六回・1992年）

あきまへん もうかりまへん 売れまへん 挨拶（第七回・1993年）

おとしに 来てたら君は 即採用 不採用担当（第七回・1993年）

ビツクバン 俺の財布の 割れる音？

我流転晴（第十一回・1997年）



「価格破壊」という言葉が流行したことからもわかるように、この頃から物価は明確な下落傾向に転じ、デフレ経済に突入。1997年に消費税が5%に引き上げられた後は、アジア通貨危機など海外経済の混乱も加わり、日本経済は苦境に立たされました。賃金の下落が始まったのもこの頃です。そうした厳しい経済環境を背景に日銀は1999年に「ゼロ金利政策」を導入。後に「失われた10年」と呼ばれるこの時代は明るい話題に乏しかったのですが、パソコンや携帯電話が普及しはじめたことにより、IT革命への期待が高まりました。

流行語

「リベンジ」「カリスマ」（1999年）

句の傾向

デフレ関連、消費税増税といった暗い話題の中で、IT関連の句も詠まれました。

消費税

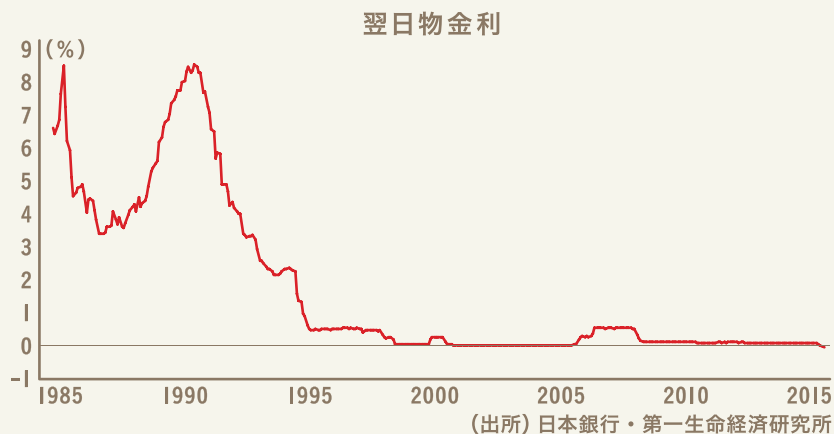
消費税 上る前にと むだ遣い 太腹かあさん（第十回・1996年）

IT関連

・コム ラッシユアワーかと おやじ聞く 鉄道マン（第十四回・2000年）

一〇〇年に 一度の不況が 五年毎

窓際貴族（第二十三回・2009年）



日本経済は金融システム不安を乗り越え、2000年代半ばになるとようやく明るい兆しが出てきました。日経平均株が18,000円を回復したほか、地価も下げ止まり、日銀はデフレが終了したと判断し、量的緩和、ゼロ金利政策を解除。しかしながら、2008年に米国の金融危機が日本を襲うと、その後は深刻な景気後退に見舞われました。世界経済の停滞と為替市場の急激な円高は、日本企業の業績を圧迫しました。改善に向かっていった雇用・所得環境は、2008年のリーマンショックによって再び悪化に転じました。

■ 流行語

「萌え」(2005年)

「アラフォー」(2008年)

■ 句の傾向

不況・円高を詠む句が多くありますが、バブル崩壊時と比べると明るく、「不況・円高も関係ない」というサラリーマンの本音(開き直り?)がうかがえます。

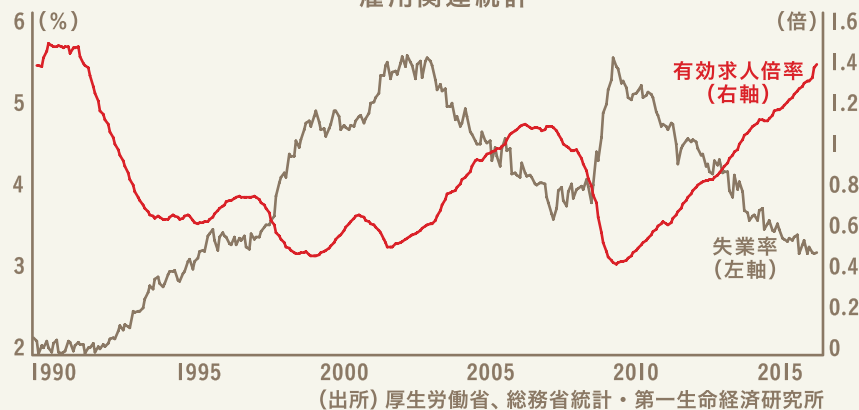
■ 不況

「デフレなの」 小遣い減らし 妻ニヤリ アカちゃん(第二十三回・2009年)
株下落 資産無いのに 大騒ぎ 日宗(第二十一回・2007年)

小遣いの 異次元緩和 未だなし

三児の父（第二十八回・2014年）

雇用関連統計



2013年から2015年にかけては、日経平均株価が一時2万円を回復。失業率も歴史的低水準まで低下するなど、日本経済の復活を意識させるデータが相次ぎました。一方、人手不足は深刻で、求人関連の指標は軒並み上昇し、少子高齢化の影響を浮き彫りにしました。また、2020年の東京五輪開催決定が一因となって、都心部を中心に不動産市場が活気付きました。相続税の増税もあって、マンションの売れ行きが好調との声も聞かれました。海外では、FRBの利上げ観測、原油安、新興国の成長減速などが話題となりました。

■流行語

「今でしょ!」（2013年）
「ありのままで」（2014年）

■句の傾向

アベノミクスで景気が上向く中でも、給与、小遣いが追いつかない様子や、消費税増税に悩む主婦の姿など、身の回りの不安や嘆きが多く詠まれました。

NISA

今でしょ!と NISAの勧誘 金NISA
フッ! なっしー（第二十七回・2013年）

消費税増税

値が上がる 物価に主婦が 音を上げる 宣茶（第二十八回・2014年）

監修 第一生命経済研究所

経済研究所エコノミスト紹介



山崎 清

(しまみね よしきよ)

第一生命経済研究所
経済調査部・首席エコノミスト

1990年 3月 青山学院大学経済学部卒。

1990年 4月 岡三証券入社。岡三経済研究所を経て、

1992年 日本総合研究所入社。

日本経済研究センターへ1年間出向を経た後、

1998年 5月 第一生命経済研究所入社。

米国経済担当、日本経済担当などを経て、

現在は金融市場全般を担当。

2011年 4月より現職。



藤代 宏一

(ふじしろ こういち)

第一生命経済研究所
経済調査部・主任エコノミスト

2005年 4月 第一生命保険入社。

2008年 4月 みずほ証券出向。

2010年 4月 第一生命経済研究所出向

同年 7月 内閣府経済財政分析担当へ出向。

経済財政白書の執筆、月例経済報告の作成を担当。

2012年 7月 副主任エコノミストを経て

2015年 4月より現職。

訪日外客数



2016年

2016年に入ると、株価は下落基調に転じ、ドル・円レートも円高方向に振れるなど、金融市場の風向きは変化しました。国内経済では消費の低迷が問題になりました。消費増税から2年超が経過したにもかかわらず、消費者の生活防衛意識が和らがないことから、政府は消費税率引き上げの再延期を決定。それまでの数年間で雇用・所得環境は改善したものの、生活実感を好転させるには力不足だったのかもしれない。一方、訪日外客数の著しい増加は引き続き日本経済に明るい話題を提供しています。政府目標の2000万人は早期に達成され、更なる伸びに期待が集まっています。イベントでは伊勢志摩サミットが開催されたほか、英国でEU離脱を問う国民投票が実施され「離脱」が決定。また、金融政策ではマイナス金利が導入され、大きな話題を呼びました。激動の時代はまだまだ続きますが、サラ川のネタ探しには事欠かないかもしれませんね。